

こうみ



小海小学校6年生議会見学

町のお金はどのように使われました ②

9月議会 ー第3回定例会ー

こんなことが決まりました ④

議案質疑 ⑥

一般質問 ⑦

常任委員会レポート ⑬

視察レポート ⑰

編集後記 ⑱

きかせて みなさんの夢
みなさんの未来に寄り添うために

令和6年度 町のお金はこの

ように使われました 成果を認定

令和6年度一般会計決算

歳入 48億6,733万円
差引額 3億3,983万円
歳出 45億2,750万円

〈一般会計〉 おもな使いみち

町民1人当たり
1,068,311円
(人口4,238人)

総務費

- ・防災無線改修工事 1億8,150万円
- ・小海駅周辺活性化事業 2,300万円
- ・小海駅運営費 1,984万円
- ・戸籍システム改修事業(繰越含む) 3,945万円

民生費

- ・町民生活支援事業(繰越含む) 3,093万円
- ・保育園屋根改修工事 2,117万円
- ・児童館用地購入 1,235万円

衛生費

- ・健診・各種予防接種 2,929万円
- ・ごみ処理関係 8,068万円
- ・小型バス購入 1,339万円



農林水産費

- ・県営畑かん整備事業負担金 2,135万円
- ・直売所指定管理料 1,277万円
- ・そば、鞍掛豆購入費 453万円
- ・ワイン用ぶどう栽培関係費 415万円
- ・八ヶ岳線改良工事 2,101万円

商工費

- ・プレミアム商品券助成事業 3,162万円
- ・店舗新築等助成事業 1,105万円
- ・八峰の湯運営費 2億4,193万円

土木費

- ・道路改良舗装費 1億5,633万円
- ・道路維持修繕費 3,349万円



消防費

- ・小型動力ポンプ付き積載車(繰越) 1,299万円
- ・佐久広域連合他負担金 1億2,908万円
- ・防火水槽設置(大畑) 495万円



教育費

- ・松原諏方神社上社修繕事業補助 550万円
- ・公民館改修補助(八那池公民館) 248万円
- ・音楽堂外壁修繕工事 1,089万円



公債費

- ・元金、利子返済 4億6,231万円



各会計 特別会計 決算額

国民健康保険
事業特別会計
歳入 4億8,601万円
歳出 4億7,959万円

後期高齢者医療
特別会計
歳入 8,896万円
歳出 8,892万円

介護保険事業
特別会計
歳入 7億701万円
歳出 6億9,282万円

簡易水道事業会計
(収益的収支)
歳入 9,836万円
歳出 9,584万円

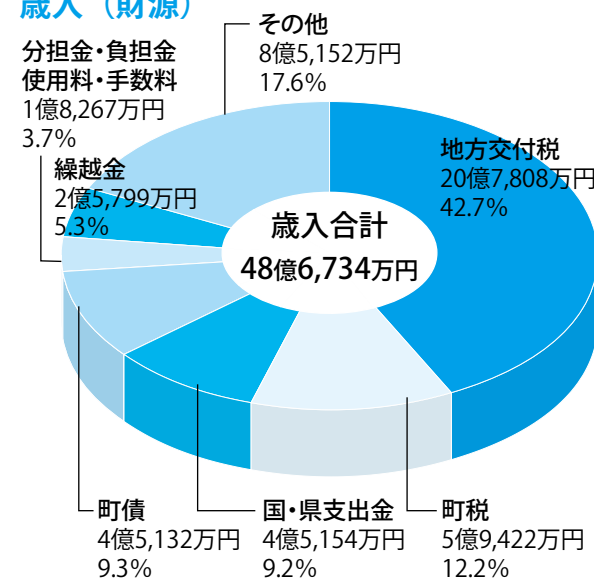


●令和6年度決算概要

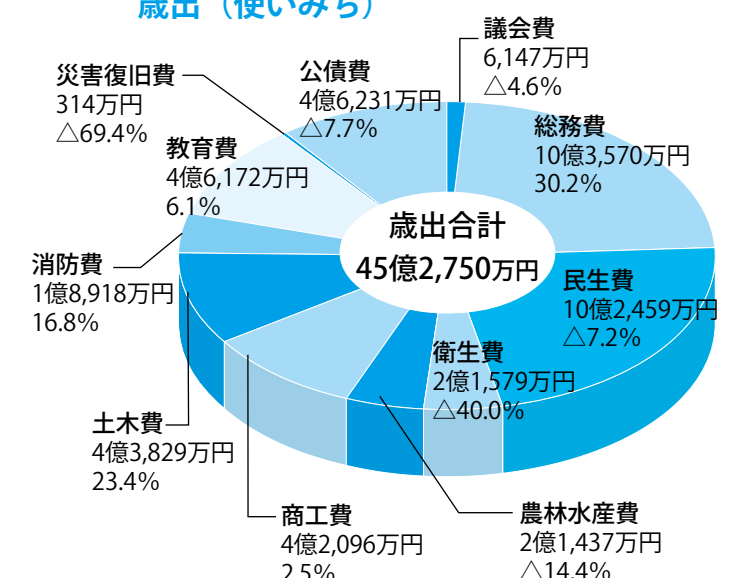
一般会計の歳出は約45億2,750万円となり、令和5年度と比べて7,960万円、1.8%増となりました。歳出の主なものは、防災無線改修工事、小海駅周辺活性化事業、戸籍システムの改修事業(繰越含む)、物価高騰対策による町民生活支援事業(繰越含む)、保育園屋根改修工事、八ヶ岳線改良工事、小海大橋補修工事、松原諏方神社上社修繕事業補助などです。令和5年度と比較して増額となった理由は、総務費、商工費、土木費、消防費、教育費の増額によるものです。

決算議会
9月定例会

歳入(財源)



歳出(使いみち)



わがや 小海町家の 家計簿

～小海町の令和6年度決算を
年収500万円の家計に例えると～

収入

給与収入(町税)	61万円
一時的な手当	
(譲与税、各種交付金、国・県支出金他)	103万円
パート家賃収入	
(分担金及び負担金、使用料及び手数料等)	18万円
預貯金の取り崩し(基金繰入金)	31万円
前年度からの繰越金(繰越金)	26万円
親からの援助(地方交付税)	214万円
住宅、車、生活資金のローン(町債)	47万円
合計	500万円

支出

食費(人件費)	94万円
医療費(扶助費)	38万円
光熱水費や生活消耗品など(物件費)	117万円
住宅の増改築や車のローン返済(建設事業費)	66万円
住宅、車のローン返済(公債費)	51万円
子どもへの仕送り(他会計への繰出金等)	26万円
自治会費などへの支出(補助費等)	67万円
維持補修費他(災害復旧費他)	8万円
預貯金他(積立金他)	33万円
合計	500万円

こんなことが決まりました

●消費税減税を求める陳情

仕事と育児の両立支援制度の利
用に関する職員の意向確認等を行
うための改正です。

全員賛成で可決

職員の育児休業等に関する
条例の一部を改正する条例に
ついて

変更する路線 五箇・細日線
変更内容 終点を千代里牧場番
 小屋までとし、路線延長を2、
 781mとするものです。

小海町道路線の変更について

全員賛成で可決

予算決算常任委員会

●こども家庭センター設置に当たり、心身の悩みを抱えたこども達や保護者に対し、望ましい相談支援が行われるよう、専門的知識を有した職員等、適切な人員配置をされた。

○町長

令和8年4月、こども家庭センター設置を目指しております。保健師、社会福祉士等を配置し、子育て支援をより一層の充実を図るとともに、それぞれの皆様に寄り添い、心の支えとなる各家庭の状況に応じた、きめ細かい相談支援に努めてまいります。



(○は賛成 ×は反対)

令和7年度一般会計補正予算（第4号）賛成多数で可決

【歳出の主なもの】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ●小海駅舎時計台修繕工事 | 800万円 |
| ●障がい者・高齢者等の住まい整備建物調査委託 | 221万円 |
| ●アルル憩いの場整備費 | 300万円 |
| ●児童館増築工事 | 3,746万円(総額3億1,746万円) |
| ●在宅育児応援支援事業 | 630万円(総額870万円) |
| ●高性能林業機械導入補助 | 1,000万円 |
| ●八峰の湯源泉予備ポンプ購入費 | 1,183万円 |
| ●都市公園整備事業基本設計委託料 | 748万円(総額2,508万円) |

【財源の主なもの】

- 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,500万円(総額1,619万円)
- 次世代育成支援対策施設整備交付金(国) △3,783万円
- 次世代育成支援対策施設整備交付金(県) △7,827万円
- 森林環境譲与税基金繰入金 1,100万円(総額2,856万円)
- 繰越金 2億8,481万円(総額3億2,481万円)

令和7年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号) 全員賛成で可決

令和7年度介護保険事業特別会計補正予算(第2号) 全員賛成で可決

1,390万円を増額 総額7億4,069万円



令和7年第3回小海町議会定例会が9月1日から9月16日までの16日間の会期で開催されました。事件議決案1件、条例改正案2件、補正予算案3件、決算認定5件、陳情1件の合計12件で審議が行われ、陳情を除くすべての案件が可決・認定されました。

一般質問は8名の議員により行われ、町の考えをいただきました。



8名の議員が町政を問いました

一般質問

YouTube配信QRコード



<1日目>



<2日目>

- ご不明な点は議員にお尋ねください。また正式な記録は町ホームページにある会議録をご覧ください。
- YouTubeで動画を視聴できますので、是非ご覧ください。

8ページ	再造林や木材の地産地消の仕組づくり推進を	黒澤 敦史
9ページ	町内道路の危険箇所改修工事は	小池 喜昭
10ページ	J-クレジットの進捗状況は？	井出 和人
11ページ	町長残すところ半年余り、来期に向けたお考えは	小池今朝之
12ページ	小海分院の支援の拡充を町主導で!!	渡辺 均
13ページ	エアコン設置に補助を	渡邊 晃子
14ページ	有機農業産地づくり取り組めないか	的埜美香子
15ページ	当地域における今後の入院ベッド数は	鷹野 文則

○一般質問とは

定例会において、議員が町の施策の状況や方針などについて、報告、説明を求めたり質問することをいいます。

議案質疑

- Q** 300円の町民応援タクシー券の利用枚数に限度はあるか？

A 町民課発行の券は70才以上は48枚、産業建設課発行の300円券は1回20枚で何回でも購入可能です。
- Q** 児童館建設費で、国と県の補助が大幅に減額になった。理由はなにか？

A 国・県ともに1/3を想定していたが、国は施設の規模から、県は同種の申請が多く、予算の範囲内で割り落としを掛けられた。事業の進捗状況は、詳細設計がほぼ出来上がっており、10月に入札、その後、臨時議会を開き契約議決を頂きたい。
- Q** 駅舎の時計台の修繕工事の工法は？

A 現在と同じ機械式で狂いのない方式を採用したい。
- Q** アルル内のカフェの運営は？

A 保健所の許可なども得られるような施設を用意し、運営を障がい者の支援活動などと連携させ、継続的な事業運営を心掛けたい。
- Q** 町政施行70周年記念事業の取り組み状況は？

A 町の四季の様子をDVDでPRするため早めに対応したい。その他の企画は今、若い職員で準備会を設置、内容の検討を進めている。
- Q** 高齢者・障がい者向けの住宅の地元説明会は？その予算の増額はなぜか？

A 説明会は用地の関係で、まだその段階に至っていない。道路状況、上下水道、全体の測量などが関わっており、予算が増額になった。
- Q** 中部横断自動車道の基金積み立てで、1千万円増額の理由は何か？

A 長期振興計画に基づいて2千万に増額した。
- Q** 在宅支援、増額の理由は？

A 在宅支援事業は、当初10人×2万円が、35人となり予算が増えた。また在宅育児支援では、1歳児が24人中17人、2歳児が20人中8人となっている。
- Q** ワイン部会とは、どういう組織か、どんな人が入っているのか？

A 国の地方創生事業では、産官学など多様な人の参加が要請されており、朝日放送の方や松本大学の先生や学生などが参加している。
- Q** にゅうへの登山道整備は、どのような整備か？

A 6月の大雨で木道が流出、今年度は湿地帯の平のところから120m、片側2車線の木道を整備する。
- Q** 佐久穂と共同で実施する白駒のシャトルバスはどのように運行されるのか？

A 八千穂スキー場から白駒の池を往復、費用は小海が1/3、佐久穂が2/3負担。料金は無料。
- Q** 都市公園事業でコンサルへの委託が多いのではないか？

A 国の予算を確保するためには、基本計画の策定が必要となるため。
- Q** ふるさと納税の実績を踏まえて今後の増収についての対応をどうするか。返礼品の一部に該当要件に適合しない品目があるように思われるが、問題ないか。今後、(増収に向け)どのように対応していくか？

A 町とのつながりを重視したイベントや宿泊などの返礼品に重きを置きながら従来の返礼品にも工夫をしてまいりたい。共同の返礼品に該当しますので、問題ありません。サイトを増やしたり、カタログ販売のような形式もあり、来町者を増やしたい。
- Q** 町の視察用バスは購入後27年経過し、更新の時期を迎えている。更新の予定はないか？

A 不具合も多くなっている。更新の方向で検討したい。
- Q** 鞍掛豆腐製造者への町の資産の活用は？

A 町が所有する豆腐製造の機器・装置を無償で提供する契約書を作成し供与している。
- Q** 社協へ移ったシルバー人材・移動販売の状況はどうか。議会へ中身を示したほうが良いのでは？

A どちらも運営は順調である。詳しい状況は社協の理事会や評議員会で示している。

問 町内道路の危険箇所改修工事は

答 産業建設課長 国道・県道の改修工事は国・県に要望



こいけ よしあき
小池 喜昭議員

問 道路の安全対策について
町内の道路及び路肩などの点検で、危険な箇所は把握されておりますでしょうか。併せて、危険な箇所の改修工事の計画をお伺いいたします。

産業建設課長 道路にまつわる土砂災害、崩落して通行出来なくなりそうな箇所、寒冷地の凍結、雪崩発生の恐れがある場所などの危険箇所を把握しており、また、通路などの危険箇所、通学路の危険箇所、小海小学校周辺などの通路についても安全対策を

実施して行く必要があると考えております。
国道・県道につきましては、国・県との協議、要望等を強くお願いして、修繕を行う予定です。

問 県道松原湖高原線入り口のの上り車線バス停まで歩道がなく、冬期間は除雪により車道を歩かなければならないケースがあり、更に、上り線、下り線共にU字溝があるが、清掃作業もなく、老朽化によりグレーチングに車に乗ると音もうるさく危険な為、埋め戻しの必要があると思います。

問 特別職非常勤公務員も含めて、業務と報酬が適正であるか、お伺い致します。

総務課長 報酬額のアップについては、全体的に特別職非常勤の皆さん全員の方々の報酬の見直しについて、今後検討していく時期であると考えております。



松原湖駅南口上り線バス停付近 歩道が無く危険

職員の業務と報酬について

小池議員 特に通学路であり県にも優先順位を高くしてお願いして、早急に改善をお願い致します。

産業建設課長 県道入り口の上り線は歩道もなく、冬の除雪で歩くところもなく大変に危険だと考えております。令和8年度の県事業に要望しております。

早急に、通学路であり、上り線の歩道と縁石の設置工事をする計画をお願いしたいと思いますが、町の考えをお伺いいたします。

小池議員 特別職非常勤公務員と同様に、役場職員、会計年度任用職員の報酬や待遇の見直しを、併せて、ご検討をお願い致します。

農業委員会の手続について

問 太陽光発電計画に伴う農地法第5条第1項の許可申請が小海町への申請で本協議後に許可が出てから、農業委員会に申請されるのは、形式だけの農業委員会になっていないか、お伺いいたします。

産業建設課長 正当な理由があり農業委員会です許可が出なかった場合は、その事業は白紙になります。

問 再造林や木材の地産地消の仕組づくり推進を

答 町長 力強く推進してまいります



くろさわ あつし
黒澤 敦史議員

問 私たちが今、目の前にしている成熟した森林は、昭和の混乱期、敗戦後の物資不足と生活困難の時代にあっても、後世の私たちの暮らしを思い、苦労を厭わず植林に尽力してくださった先人たちの尊い努力の結晶です。木を一本植えても利用できるまでに何十年もの歳月を要するこの営みは、まさに未来を信じる行為そのものであったと言えるでしょう。その恩恵を今、現実の資源として享受しうる私たちに、極めて大きな責任と役割が伴います。得られた資源を無駄にせず、次の世代のため

に再び森を育てるサイクルをつくること、森林の公益的機能と経済的価値を両立させる持続可能な仕組みを構築していくことが私たちに課せられた使命ではないでしょうか。活用可能性の認知を広げていくための公共施設への町内産カラマツ利用や、森林の循環的な活用のための長期的なビジョンについてお聞かせください。

産業建設課長 公共施設にカラマツ材を使用することは、町民や次世代に対して、森林資源の重要性和環境保全の意

問 宮崎県では、都道府県初となる再造林推進条例を公布・施行し、抜本的な再造林対策に取り組んでおり、再造林率日本一を目標としています。当町における林業振興も、さらなる森林の健全な更新、地域経済の循環、そして次世代への資源継承といった幅広い観点からの取組が求められています。カラマツが伐採期を迎えている今こそ、再造林支援や木材の地産地消の仕組みづくり、担い手の育成といった政策を、これまで以上に戦略的かつ実効性のあるものとして位置付けていくべき



再造林された山林

義を育むことに繋がります。森林組合、製材業者や建設会社との連携を深め、カラマツ材加工の技術開発や販路拡大を目指してまいります。

ではないでしょうか。町は今後の林業振興にどのような姿勢で臨もうとしていますでしょうか。

町長 農業と並ぶ一次産業の中心をなし、歴史もあります。町の重要な産業であり、山主が十分な利益が上げられる状況を目指し、力強く推進してまいります。

問 町長残すところ半年余り、 来期に向けたお考えは？

答 町長 強い意志をもって、3期目に臨みたいと思います



こいけ けさゆき
小池 今朝之議員

問 町の職員定数について

答 町の予算説明資料における職員在籍者数(4月1日現在)と会計年度任用職員は、

総務課長 長部局それぞれの課と、教育委員会、議会事務局、派遣等含めすべてを足した人数は76名で会計年度任用職員については、長部局を含めた人数は89名で協力隊と町民課所属のあゆみ園を含めますと100人を超えております。

問 職員数も増えるなか職員配置表(4月1日付)を見る

町長 近年中堅職員2名の退職については私と十分相談、協議をした上での退職です。

総務課長 町全体の人口は減少するものの、行政に求められるサービスはアップしているという現象が職員数の増加につながっております。職員の兼務については年齢層の職員数に問題はありませんが経験者を積んでいただき長の職を担ってもらいたい。

町長 課長職の兼務が多く係長不在の係もありオーバーワークの感を強く感じるが現状は、

毎年76名の職員全員と個人面談を実施しております。

年金の支給開始年齢に起因して定年が65歳となるまでの間、町での暫定再任用の対応について

問 職員構成を見ておりますと、数名ずつの対象者が毎年出てくるように感じますがどのようにに考えているのか伺います。

総務課長 定年が延長されるなか必ず再任用するとは決まっておらず、その都度会計年度任用職員とのバランスも見ながら対応したい。

小池議員 職域の多様化と職員配置などを見たときに、近い将来、職員定数の見直しも視野に入れながら職員の皆さんが働きやすい労働環境づくりを期待致します。

挑戦・新鮮・実行の第2ステージの総括は

問 2期目最後の決算を迎え公約の総括と達成率は。



町長 各種新規事業に取り組む、相対的に評価をすると70点である。

問 町長残すところ半年余り、来期に向けたお考えは。

町長 強い意志をもって、3期目に臨みたいと思います。

問 J-クレジットの進捗状況は？

答 産業建設課長 10月に関係者への説明会を計画しています



いで かずと
井出 和人議員

問 J-クレジットの取り組みが計画され、丸紅に委託する予算が組まれています。現在の進捗状況は？

産業建設課長 令和6年度に丸紅に業務委託をし、地位測定を実施しました。北牧財産区、親川生産森林組合で申請を進めています。令和7年度に国の「J-クレジット」認証委員会に登録申請するための準備を進めています。

問 植林をすればカウントできる方法があります。金額が少なくても申請に入れていただき、運営が安定するよう考えてください。

産業建設課長 今回は、CO₂を吸収できる地区、財産区が2団体、約1,100haを認定してもらう予定ですが、今後再造林を実施し追加申請をしていきます。

問 カラマツ再造林を進めるため、町でも補助金を出しています。県、森林組合でも令和7年度から個人負担10年間

問 町内の林道整備計画について伺いたいと思います。林業の生産向上のため、林道整備が必要だと思います。町内の林道のほとんどが手が入っておらず、通行の出来ない道路もあります。環境譲与税を利用して、定期的整備が必要では？

産業建設課長 道路が狭く利用出来ない所もあります。来年度は小海軽井沢線「笹ノ沢」線の整備を計画しています。短い距離でも毎年計画する事



林道茂来線

ゼロの、保育10年の保証制度を実施しています。この制度を知っている山林所有者の皆さんは少ないと思われます。町で広報等を発行しては？

産業建設課長 現行制度、地帯え、植栽、下刈り、10分の10の補助により、山林所有者の負担はありません。この事を広報等で広め再造林を進めます。

が必要と考えます。

※J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

問 エアコン設置に補助を

答 町民課長 住宅リフォーム補助金でお願いします



あきこ 晃子議員
わたなべ 渡邊

熱中症対策について
問 今夏町の熱中症の状況は。
町民課長 佐久広域連合消防本部より、7月は0人。8月成人1人と高齢者2人の救急搬送者数の報告が来ています。
問 住宅リフォーム助成でエアコン購入できるとの広報は？
町民課長 広報はしてございません。
問 8月末までに14件、昨年度は25件の利用があった中で、一番安くて12万円台、高いと50万円ほど。8割は自己負担でやはり負担は大きい。住民税非課税世帯も多い。住宅リフォーム助成だけでいいのか。
町民課長 現状では住宅リフォーム助成補助金でお願いします。低所得者へ国・県も補助を出している。そういうものも活用してエアコン設置を考えていただくのも一つの手。

交通政策について
問 業者とどのような協議をして本間線・松原湖線もタクシー運行になったのか。
町民課長 予約は事前に入っていた。台数は4台まで。運転手の数にかなり問題があると。従業員全員も考えるが、常時は難しいと伺っている。これが課題。町民の皆様への利便性を高めるため再度調整を重ねていく必要があります。
問 審議会で、夏休みのこどもの利用に支障が出ているなど具体的なご意見・ご要望があった。
町民課長 タクシーだと100円がかかる。中学生にはハードルが高いなど、中学校教頭先生からも、敷地内に入ってくるのも懸念とお話頂きました。今後学校関係者とも相談しながらより適切な利用の在り方を協議して進めます。



生涯学習課長 厳しい財政状況の中、持続可能な制度設計をするのが難しいところは正直ございます。
給付型奨学金導入を
問 町で貸与奨学金はあるが、給付型奨学金導入を。
町民課長 非常に難しい部分だが、柔軟な運行ができるよう検討していきます。
問 障がい者の方のために、はつきりバスの存続をと訴えがあった。
渡邊議員 学校関係者、保護者、こども達からもしつかり意見を聴いてやって頂きたい。

問 小海分院の支援の拡充を町主導で!!

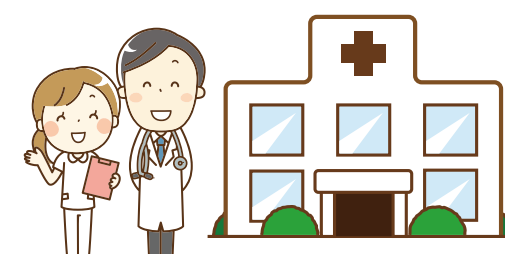
答 町長 大変なことはわかっているが、要望が出てこない



わたなべ ひとし 渡辺 均議員

問 分院への補助が1,500万円では不十分。増額と相談窓口の開設を提案。
町長 申し出のない中で、少ない、我慢して、出せないとか、話すべきではない。
問 分院の窮状ははっきり述べられている。応援も約束した、町主導で医療を軸にした町づくりを立ち上げて欲しい。
町長 大変なことは分かっている。どこが大変かも判っている。しかし(要望)が出てこない。(こちらから)金、これだけやる、とは言えない。
問 医療、介護、福祉の町を作り、町民こそが憩うまちを作る。そのために検討会を立ち上げ、見える形で進めて欲しい。
町長 隠し事は何もない。会議の中で話している。
渡辺議員 医療や介護、福祉事業が町の新しい産業になる。この考えを元に医療や介護のビジネスを立ち上げる。そのための調査研究を立ち上げて欲しい。

林業振興と憩うまち事業の連携を模索する
問 町は5年で5,600万円を使い憩うまちこうみを進めている。成果の向上に向け、次の提案をする。①参加企業に森林育成資金の拠出を要請、見返りに企業に一定規模の森林を提供、脱二酸化など企業の社会貢献事業に活かす。②社員に山仕事ツアーを企画、植林や下刈りなどの山仕事を体験させ、これにヨガと温泉、猟友会と鹿肉などを共食。林家の暮らし方(文化)を体験させる。講師は森林組合や地元林業家、③提携企業の従業員の健康管理を分院で担い、その手当を分院に支給、収支改善と患者の減少を防ぐ。④企業の力を活かし、リサイクルセンターの撤去と再造林を進め、集落の振興や環境整備を推進する。
町長 リサイクルセンターのことが印象に残った。民間との取り組みは大切だがメリツトだけではダメ、個々の提案



には事前に話をお願いしたい。
生産者に安く、消費者に高いコメ問題を自給で克服
問 小海でコメは自給が可能。生産者、消費者、直売所の三方よしの事業に取り組めないか。
産業建設課長 提案は素晴らしいが、予算面で難しい。保管も問題、ノウハウもない。

問 当地域における今後の入院ベッド数は

答 町民課長 町も何か手を打つ必要がある



たかの ふみのり
鷹野 文則議員

問 団塊の世代が後期高齢者となる地域医療構想から、団塊ジュニア世代が65歳以上となる新たな地域医療構想に向け、病床数の削減が課題ですが、当地域における入院ベッド数について町の考えを伺います。

町民課長 確かに、病床数の議論が出ています。医師の働き方改革で医師不足により病床数削減の状況になっていきます。町も何か手を打つ必要がある部分もあると思います。佐久医療圏地域医療構想調整会議を開催し医療提供体制の

課題や方向性を協議しています。病床数では、佐久病院の精神棟の病床数を減らすことが論点となっています。他の病床数、分院等も変化はないと聞いています。現況は、患者は精神疾患が多く精神棟が閉鎖されるのは、地域の医療として非常に困ります。町は、医療機関に要望していますが、それだけでは解決しないので、県へも声をかけ全県的な問題としてとらえていきたいと思っています。病床数の増減では、減少を食い止めるため県へ支援策を取り付けていきたいです。

鷹野議員 人口減少ある中病床数の削減は提起され続けますが、周りに流されず、地域医療維持を、医療機関だけでなく、地元自治体の理解と支

問 いよいよ町として対策を打ち出す時ではないか。

町民課長 県の担い手の確保や経営改善の研修、介護人材確保、職場環境改善等の事業補助が行われています。事業所で有効活用できるように、町としても情報提供や相談対応で支援を進めていくことが今のところの方策として考えているところです。

問 処遇改善手当を町が補助している自治体もある。緊急対策として、病院も含め、ケア労働者の人数分を今年度分として町で補助をしないか。一人当たりで計算すれば、どの事業所にも公平に支援できるのではないか。

町民課長 参考意見にさせていただきます。

問 昨今の地球環境や動向を踏まえ、国の農業政策も有機農業に着目し、面積拡大に向

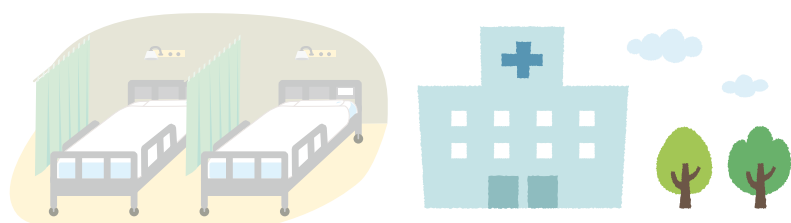
問 人口千人当たりの病床数は、国12.6床、県9床、佐久医療圏9.8床、南佐久7.7床です。南佐久の病床数は多くはないと思いますが、南佐久の病床数の基準はどの位と考えていますか。

町民課長 町として考慮・計算は、していません。今のところ確固たるデータ等を用いて病床数を今後どうするかを検討していません。

問 南佐久は、千曲病院がすでに50床ほど転化していますので、現在の病床数でよいのでは。

町民課長 分院の病床も減らす予定はないと聞いていますし、南佐久南部については、大きな減少はないので現在の数でよいと思います。

産業建設課長 補助金が下りないため先送りせざるを得ない。現在の道路に待避所等を作っていく。



問 有機農業産地づくり取り組めないか

答 町長 ご提案含めた中で、今後進めていく覚悟です



まとの みかこ
的埜 美香子議員

介護の実態と充実へ

問 昨年の訪問介護報酬引き下げにより、全国的に訪問介護事業所の休廃止が相次いでいる。町の実態は。

町民課長 町では、報酬引き下げの影響も一定程度あるものの、要介護度が高い方の訪問系サービスの利用が減少し、施設サービス利用者の増加傾向にあります。

問 「訪問介護に限らず、どの事業所にとっても人員不足が大きな課題だと思うが、増

加傾向にある認知症の方の対応や独居の方の対応、施設でのサービスの低下など影響は出ていないのか。

町民課長 小海町に限らず、全国的な課題です。なり手不足の主な要因としては、賃金水準の低さや身体的・精神的な負担の大きさ、職員不足による希望休の取得の困難があるなど色々挙げられ、町内事業所においても特に職員の高齢化と若手の人材育成が大きな問題になっています。町としてどのような定着支援策がよいのか・一番の課題です。

問 町として有機農業の推進を

町民課長 参考意見にさせていただきます。

問 昨今の地球環境や動向を踏まえ、国の農業政策も有機農業に着目し、面積拡大に向

問 有機農業産地づくりをその事業の中で取り組めないか。

町長 有機を促進していく事は、非常に大切なこと・ご提案含めた中で、今後進めていく覚悟です。

産業建設課長 今後遊休農地活用事業の中で検討して町の中にも取り入れていきたいと考えています。



けて、地域ぐるみで有機農業の生産から消費まで一貫して取り組むオーガニックビレッジの創出を推進しています。町でもぜひ進めていただきたい。

行政視察レポート

去る8月末に、小海町議会として町村議会広報研修会に参加しました。この研修会では、議会だよりを魅力的にするアイデアとして、町と関係ある人のインタビュー記事掲載する、動画を聞いた議会情報の発信などの、全国の町村で取り入れられている事例を学びました。実際に議会だよりを大幅リニューアルし、全国広報コンクールで何度も入賞している福岡県の大刀洗町から、議会広報委員会の委員長も講演してくれ、議会だよりがもつ読みやすく、親しみやすくなる工夫をたくさんいただきました。たとえば、記事の内容をイラストや写真で補ったり、難しい単語に説明をつけ加えたりすることで、議会の活動がわかりやすく身近に感じられるとのことでした。

広報紙に対して先進的な取り組みをしている例として、神奈川県葉山町、開成町、埼玉県寄居町などが挙げられます。みなさんは小海町の議会だよりに関心してどのように感じていますか？ぜひこれら市町村の広報紙にも目を通していただけ、ご意見をお寄せいただけると幸いです。



町村議会議員広報研修会

町村議会広報研修会

中村 佳太

東京都奥多摩町

小池 今朝之



1戸建ての町営住宅

東京都の西北端に位置し、秩父多摩甲斐国立公園の中にあり自然豊かな町で、人口は4,462人(小海町4,225人)と規模的に類似した自治体で高齢化率は53.4%です。町の課題は小海町に似ており、過疎化における人口減少と高齢化に歯止めをかけるため少子化対策の推進、定住化対策の推進を第5期長期総合計画の重点施策として事業展開を図っております。

定住化策としては、①低額な家賃設定の町営若者賃貸住宅、②移住・定住支援補助金と利子補給、③いなか暮らし支援住宅と若者定住応援住宅、④若者用空家バンク、⑤貸したい売りたい者には奥多摩町空き家等活用促進事業交付金がある。そのほか町開発の宅地の分譲などの取り組みをしているようですが、いい施策は近隣自治体にすぐに真似されるとの声も聴きました。

奥多摩町の「子ども家庭支援センター『きこりん』」は、18歳未満の子どもと家庭、妊産婦等を対象とした総合相談等を行う施設です。「すべての親がゆとりをもつて子育てできるよう」と様々なイベントも行っており、小海でいう『なかよし児童館』の児童館事業を切り離れたイメージですが、大きな違いは、ほととできる広いカフェスペース(障がい者地域活動支援センターの方が入り、焼菓子や雑貨も販売)があること、そしてなんとと言っても相談体制の充実です。相談員4名(保健師、児童福祉司任用資格など有資格者)が常時いる他、心理・発達相談を主とする臨床心理士2名が月4回来館、相談は増加傾向とのことでした。小海でも求められているのは、本当に安心して相談できる環境だと、この間強く感じています。専門職を常時確保することは大変なことですが、どんな形からでも体制強化をしたいと思います。



奥多摩町議会議員の皆様と

奥多摩町の子ども家庭支援センター

渡邊 晃子

常任委員会レポート

カラマツの恩恵を 再造林で次世代に…!!

総務産業常任委員 渡辺 均

中部森林組合より、カラマツの再造林は所有者の負担なしで行える。伐期を迎えたカラマツを適正に処分し、再造林で環境を維持し、次世代に恩恵を引き継ぐ取り組みが要請されている。

公共が営利目的の団体を補助することには、相応の大義が求められ、それは伐期を迎えたカラマツの有利販売を促しつつ、森林のもつ国土保全や景観・環境の維持・管理という公益的な役割への評価である。

その要点は、組合への再造林活動の要請にある。伐期を迎えたカラマツは、我々の祖父母の代に急峻な山岳にまで植えられ、当時の過酷な労苦が偲ばれると共に、伐期を迎え、集材需要などの高まりで比較的高値で取引され、祖父母の労苦が恩恵となって今の世代に施されているのである。



7月18日、小海小学校において、授業参観および、学校現場の現状と課題について、校長先生と懇談を行いました。

全学年で現状の授業形態を参観することができました。タブレットを使用したり、グループでの討議をしたり、町費負担の支援員のかかりなど、授業の在り方の変貌に時代の流れを感じました。

授業参観後、長澤校長先生との懇談会に臨みました。席上、校長先生から、特色ある学校づくりのために、従来の小さな枠の中に全ての子どもたちを押し込めるのではなく、個性豊かで多様性を持ち合わせた、特色を受け入れ、考える授業から、学ぶ授業へ、そして自走できる子どもたちを育てたいとの、学校教育目標をうかがうことができました。

又、長澤校長先生から、校舎の修繕改修について何件か要望がありました。

①トイレが児童職員共に狭い、臭い、タイルの剥がれあり ②下駄箱の収納スペースが小さい ③体育館

民生文教常任委員会 視察研修の考察について

民生文教常任委員 菊池 一巳

への渡り廊下からの隙間風対策などの要望を受け、同席した教育長から、要望の何点かをすでに調査研究をし、対応を検討しているとのこと。今回の視察懇談により、教育現場の現状をつぶさに聞き取り、有意義な視察研修になったと総括し考察したいと思います。



表紙の写真

令和7年第3回定例会の招集日である9月1日に、小海小学校の6年生が社会見学の一環で議会の傍聴に來られました。休憩時間を活用して行われた模擬議会では、「学校給食にデザートの日を設ける件について」を議題とし、議案の上程から採決までの一連の定例会の流れを体験していただきました。また、5名の生徒から町や議会に対しての質問も行われました。今後も地方議会の果たす役割について、小学生が学べる機会を設けていきたいと考えます。



小海小学校6年生の皆さんから

編集後記

8月28日、全議員で町村議会広報研修を受講してきました。現職議員（福岡県大刀洗町議）による「議会活性化と連動した広報紙づくり〜住民の政治参加をうながすツールに〜」と題した講義内容に感銘を受けました。ご自身の長年の議会活動での議会活性化の取り組みが広報の充実に結びついていること。議会全体での活発な議論や政策提言など議会が活性化することにより、議会だよりに掲載される内容も必然と多くなり、広報の充実につながる。「ネタは議会がつくる」納得です。

今、小海町議会では常任委員会の活動強化をはかっています。その内容が議会だよりで伝わり、住民の政治参加を促すツールになればと思います。

（編集委員 的埜美香子）

編集責任者 篠原 哲雄

編集委員長 鷹野 文則

編集委員 渡辺 均

編集委員 的埜美香子

編集委員 菊池 一巳